

木の総合文化(ウッドレガシー)を推進する議員連盟(仮称) 設立趣意書(案)

2020年のオリンピックパラリンピック東京大会に向けて、新国立競技場をはじめ、各種競技施設や選手村の木造・木質化や椅子などの各種備品の国産材等の木材利用が検討・推進されている。

わが国は、古来より、豊かな森林資源を大切にしながら、神社仏閣や木造住宅、家具建具、木工品・調度品など木材を生活に取り入れ、技能・技術を磨き、「木の文化」を育んできた。

オリンピックパラリンピック東京大会は、「ショーウィンドウ」として日本の「木の文化」を世界に発信する大きなチャンスであり、木を使用した競技施設などのオリンピックレガシーを活用しながら、森林整備の重要性や地球温暖化の防止、木材利用の促進などの理解を深め、「木の文化」の国際的な交流、イベントや事業などを展開し、先人たちが築いた「木の文化」を引き継いでいくことが極めて重要である。

については、ここに「木の総合文化(ウッドレガシー)を推進する議員連盟」(仮称)を設立し、「木の総合文化」の普及・啓蒙及び木材活用の推進などについて積極的な取り組みを図るものとする。

平成29年 月 日

「木の総合文化を推進する議員連盟」発起人一同